

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 15日

事業所名 いろ縁ぴつ にじいろ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1階と2階を活用してスペースを確保している	
	2	職員の配置数は適切である	○		送迎関係、個別支援が必要な児童に支障が出ないように行っている	人員の送迎が出来ない職員もいる為まだ難しい日もある 上手く組み合わせ等を考えて支援にあたる
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	段差解消やクッション材の設置等に対応している	自然な家庭環境に準ずる環境に努め、その中で危険回避できるよう努めている 個々の状態に応じ対応できる空間作りに努める
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月間活動計画を設定して各職員が計画に基づいて業務を進めている	その月(週)の課題などを目標に業務が遂行できるよう朝の申し送りでの伝達共有を欠かさず行っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		送迎時や面談時に保護者様と意見交換を行い、日々の支援の改善への繋げている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		縁グループのホームページにて実施	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在、行えていないため今後検討していく
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		グループでの研修に参加、Zoomを活用した研修に参加している	事業所内においても研修の取入れを増やしていく
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		面談を行い、保護者様の意向や要望を基に個別支援計画の作成に取り組んでいる	状況(必要)に応じ面談(相談)できる機会を保護者様に認知していただき上質な支援に繋げていく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		事業所として今後積極的に取り入れ利用時の子供の把握と支援に繋げていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当が中心となり、必要に応じて意見を聞いて立案を行っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		今までの活動を確認しながら固定化しないようにしている	各職員それぞれが役割を持ち飽きの来ないプログラムの立案となるような仕組み作りを進める
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			平日や長期休暇の活動時間によって目的を持った活動設定をしていく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的にケース会議を行い、保護者様と面談をして支援計画を作成している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼の時間を使って一日の流れを確認したり、日案を元に事前に共有できるようにしている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	都度、気づきには全体共有できるようグループツールにて即時報告、即時対応できるようにしている	共有した情報をいかに改善、向上、維持させていくかの話し合いの時間を設ける
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援記録の記載を行い、確認をしながら継続的な支援に繋げている	記録に複数人とりかかっている為担当制に他の業務に繋げていく
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者様との面談を定期的に行い、見直しについて確認をしながら判断をしている	個別支援計画更新時の面談が多く定期的に面談、相談の必要性を保護者様に確認、必要とされている方に対しフォローを行って行く	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			定期的にガイドラインについて確認をして支援の在り方について検討していく	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 15日

事業所名 いろ縁ぴつ にじいろ

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	管理者や児発管が参加。事前にケース会議等で情報共有をして伝達している	担当者会議でも情報を取得できるように積極的なアプローチを行っていく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校から下校時刻表を頂いたり、送迎時に変わったことがないかなど様子を確認している	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	契約時に情報を頂いている。また、状況が変化した場合等に定期的に情報共有をしている	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	就学時に児童の様子や状態についてやり取りを行い、情報共有をしている	実際に施設を訪問して視覚的に情報共有や相互理解ができるよう必要に応じ連絡を密にする
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	対象児童がいる場合、必要としている支援内容の提供、対象者の特徴等必要に応じ開示している	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	電話での連携をとっている	連携はとれているが、研修についてはまだまだ不足している部分であるため機会を持つことができるようにしていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	戸外活動時に一緒に活動することがある	児童館等でも活動の機会が持てるように検討したい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	開催時には積極的に参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	日々、その都度利用に際しネットワークツール、連絡帳等でやり取りをしたり、送迎時に情報共有を行っている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		今後、ペアレントトレーニングについて学び、保護者様にとっても必要な支援を行っていく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に保護者様と確認をしながら説明を行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎、面談時や必要に応じて相談を受ける機会を作り、支援を行っている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今後、情勢を見ながら検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情受付について周知を行い会議にて共有、協議、改善に努め保護者様、関係者様に対し迅速な対応をしている	対応が難しいとなるケースが起こった場合、上司に相談して指示を仰ぎ原因究明、解決に繋げる対応が難しいケースが起こらないよう普段から常に注意を行う
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	おたよりや、アルバムなどで伝えている	ブログにおいては現状更新出来ておらず近々再開する予定
	35	個人情報に十分注意している	○	鍵付きキャビネットを使って個人情報の保管を行っている	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	伝え方に配慮して保護者様とのやり取りを行っている	障害によつての伝達手段(手話)を研修などで学ぶ機会を取り入れるようにする
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		社会性の向上にも繋がるので、実施を検討していく

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 15日

事業所名 いろ縁ぴつ にじいろ

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	施設内に掲示しており、保護者様には契約時に一緒に確認しながら説明している	定期的に確認の必要があるため、機会を作っている
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	月に一回程度、火災・水害・不審者等で条件を変えて訓練を実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待防止研修を施設で行っている	定期的に研修を行えるとよい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	必要な場合には、事前の了承をもらうことと支援計画への記載を徹底している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	事前(契約時)に情報共有を行い、アレルギー表を作成して掲示している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハットが発生した際に書面に残し話し合いを行っている	